

外為マンスレビューⅢ 南半球編

先月までの為替相場のレビューと、今後の注目の経済指標やイベントを元に、為替相場の展望をお届けします。

2017/09/05

リスク回避ムードはどこまで広がるか

通貨ペア	基調		ページ数
豪ドル/円	➡	リスクセンチメントに左右される 予想レンジ: 84.500~ 90.000円	2-3
NZドル/円	↘	総選挙は波乱含み 予想レンジ: 75.500~81.000円	4-5
ランド/円	↘	利下げ前倒しも 予想レンジ: 8.100~8.800円	6-7

※通貨ペアをクリックすると、そのページにジャンプします



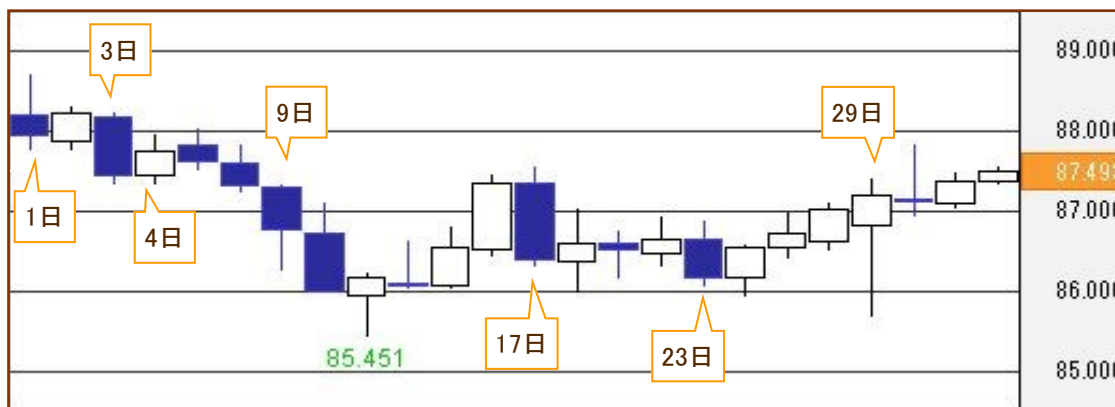
本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2017 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

豪ドル/円 8月の推移

AUD/JPY

8月の豪ドル/円は、85.451～88.702円のレンジで推移し、月間の終値ベースでは約1.0%の下落(豪ドル安・円高)となった。上旬は北朝鮮リスクなどから下落圧力がかかり、11日には約1カ月半ぶりに85.451円まで下落した。なお、この段階で7月末に付けた約1年7カ月ぶり高値(89.427円)からの下落率は4%を超えた。欧州中銀(ECB)に倣って、豪中銀(RBA)の政策も引き締めスタンスに向かうとの市場の思惑に反してRBAが中立スタンスを崩さなかった事も影響した。ただ、中旬以降は、米国の利上げ観測が後退した事などからドル安・豪ドル高に振れたため、豪ドル/円も底堅く推移。北朝鮮情勢に振り回されて乱高下する場面もあったが、30日には上海総合株価指数が年初来高値を更新する中、87.80円台まで値を戻した。



四本値

OPEN	88.208
HIGH	88.702
LOW	85.451
CLOSE	87.375

1日	中国7月財新/製造業PMIが51.1となり、市場予想(50.4)を上回ると88.702円まで上昇したが、その後は失速した。RBAは事前予想通り政策金利の据え置き(1.50%)を決定。声明文では「後数年間の成長率予想は年率3%前後を見込む」「経済が強含むにつれ、インフレは徐々に上向くだろう」「通貨高は価格圧力の抑制の一因となることが見込まれる。また、生産と雇用の見通しの重しにもなっている」などとした。声明自体に目立った変化はなかったが、タカ派化を期待した一部の参加者から豪ドル売りが出た模様。
3日	豪6月貿易収支は8.56億豪ドルの黒字と、市場予想(18.00億豪ドルの黒字)を下回った。また、中国7月財新/サービス業PMIが51.5と前月(51.6)から悪化した事も重しとなり、豪ドル/円は弱含んだ。
4日	RBAが四半期金融政策を公表。2017年の経済成長率(GDP)見通しを0.5%下方修正して2~3%とした事から、一時豪ドル売りに傾いた。しかし、インフレ率見通しで、2017年下期に2%前後に到達する見込みとし、到達時期の予想を従来の18年初めから前倒した事などから、その後は切り返した。なお、豪6月小売売上高が前月比+0.3%と予想(+0.2%)を上回った事も豪ドルを押し上げた。
9日	前日にトランプ米大統領が、北朝鮮が米国をこれ以上脅かせば「世界がこれまで目にした事のないような炎と猛威に直面することになる」と述べたのに対して、北朝鮮は「(米軍基地のある)グアムへのミサイル攻撃を『慎重に検討』している」と発表した。米朝間の緊張が高まる中、地政学リスクが意識されて円買いが活発化。ケントRBA総裁補佐が、「商品相場と関連のない豪ドル高は成長を阻害」などと発言した事も重しとなり、86.20円台まで続落した。
17日	豪7月雇用統計は、失業率5.6%、就業者数2.79万人増、労働参加率65.1%(予想:5.6%、2.00万人増、65.0%)と比較的良好な結果であった。ただ、就業者数の内訳で正規雇用者が減少(非常勤雇用者が増加)していた事などから、豪ドルの上昇は一時的にとどまった。その後、スペインのバルセロナで車両が群衆に突っ込むテロ事件が発生すると、リスク回避の動きが強まり豪ドル安・円高が進んだ。
23日	トランプ米大統領が支持者集会で「政府を閉鎖しなければならなくても、(メキシコ国境に)壁を建設する。国民は移民規制に票を投じた」「我々が合意に達することができるとは思わない。そのため私は、ある時点で我々は北米自由貿易協定(NAFTA)を撤廃する事になると考えている」などと述べた事を嫌気して、欧米の株価が下落すると豪ドル売りが強まった。
29日	北朝鮮が発射したミサイルが日本の上空を通過。緊急警報システム「Jアラート」やNHK速報でこの事実が伝わると同時に円買いが活発化して85.70円台へと急落。しかし、NY市場に入り、米国防総省が「北朝鮮のミサイルは北米とグアムの安全を脅かさない」との見解を示した事などからリスク回避ムードが緩み、米国株が持ち直すと87.30円台に反発した。

AUD/JPY

日経平均

OPEN	19907.08
HIGH	20113.73
LOW	19280.02
CLOSE	19646.24

NYダウ平均

OPEN	21961.42
HIGH	22179.11
LOW	21600.34
CLOSE	21948.10

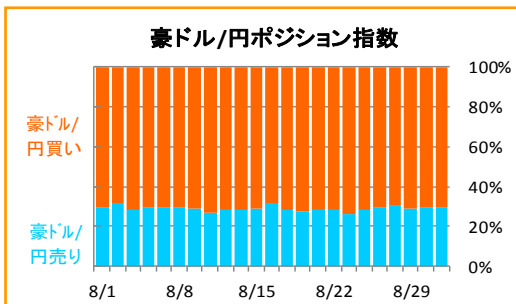
上海総合指数

OPEN	3274.369
HIGH	3376.648
LOW	3200.748
CLOSE	3360.810

豪10年債利回

OPEN	2.699%
HIGH	2.742%
LOW	2.573%
CLOSE	2.714%

8月のポジション動向



9月の豪州・中国の注目材料

- ・8月中国/財新製造業PMI(1日)
- ・RBA政策金利発表(5日)
- ・4-6月期豪經常収支(5日)
- ・4-6月期豪GDP(6日)
- ・7月豪貿易収支(7日)
- ・7月豪小売売上高(7日)
- ・7月豪住宅ローン件数(8日)
- ・8月中国貿易収支(8日)
- ・8月中国消費者物価指数(9日)
- ・8月中国鉱工業生産(14日)
- ・8月豪雇用統計(14日)
- ・RBA議事録(19日)
- ・9月中国製造業PMI(30日)

9月の見通し

月間指標カレンダー(外部リンク)

豪ドル/円相場は、7月27日高値89.427円から8月11日安値85.451円までの下落幅の半値戻し水準(87.439円)が軽い上値抵抗となっており、足元ではこの水準前後でもみ合っている。相場動向に明確な方向感認められず、上下どちらに動き出してもおかしくない「踊り場」に差し掛かったと考えられる。その動き出しの手掛りとしては、豪州国内の政治・経済情勢よりも、北朝鮮や米国、あるいは欧州などの外部情勢が優先されるだろう。そもそも、リスク選好通貨である豪ドルと、リスク回避通貨である円の組合せは高ボラティリティ化しやすく、相場が同一水準に長くとどまるケースは少ない。緊迫化する北朝鮮情勢はもちろんの事、債務上限引上げの期限が迫る米議会の動向や、独総選挙の行方などにも要注目となる。9月の豪ドル/円相場については、これらを受けた市場のリスクセンチメントに左右される展開となりそうだ。(神田)

(予想レンジ: 84.500-90.000円)

NZドル/円 8月の推移

NZD/JPY

8月のNZドル/円相場は78.284～82.998円のレンジで推移。月間の終値ベースでは約4.7%の下落(NZドル安・円高)となった。

NZ中銀(RBNZ)が声明でNZドル高をけん制した事や、北朝鮮と米国の軍事衝突リスクが高まった事から、軟調に推移。その後は夏休みシーズンで市場参加者が減少する中、方向感に乏しい展開となるも、29日に北朝鮮が再び軍事的な挑発行動に出ると、約3カ月ぶり安値となる78.20円台まで再び下落した。



四本値

OPEN	82.789
HIGH	82.998
LOW	78.284
CLOSE	78.920

1日	フォンテラの乳製品入札で、GDT指数は前回比-1.6%であった。
2日	NZ4-6月期雇用統計は、失業率が4.8%と2008年10-12月期以来の水準に低下するも、就業者数は-0.2%と予想(+0.7%)外の減少となった。これを受けてNZドル売りが優勢となった。
10日	RBNZは事前予想通り、政策金利の据え置き(1.75%)を決定。声明で「NZドル相場はより低い水準が望ましい」とするも、金利を相当な期間維持する方針は変わらなかった。一部でよりハト派的な声明が予想されていた事もあり、NZドルが一時上昇。しかし、ウィーラー総裁が「為替介入は常にRBNZに開かれている」などNZドル高をけん制した他、マクダーモットRBNZ総裁補が「NZドルには下向きの調整が必要」「RBNZは介入に向けた第一歩としてNZドルに関する文言を変更した」などと発言する中、NZドルは反落した。
15日	フォンテラの乳製品入札で、GDT指数は前回比-0.4%であった。
23日	NZ財務省が2016/17年度予算を発表。一時的な税収増を理由に16/17年度の財政黒字見通しを37.06億NZドルの黒字と5月時点(16.20億NZドルの黒字)より大幅に上方修正した。しかし、経済成長見通を16/17年度が2.6%、17/18年度は3.5%と、従来(3.2%、3.7%)から下方修正した事が嫌気されてNZドル売りが優勢となった。
24日	NZ7月貿易収支が予想(2.00億NZドルの赤字)に反して0.85億NZドルの黒字と、7月としては5年ぶり黒字となった。
29日	早朝に北朝鮮が発射したミサイルが日本の上空を通過して襟裳岬沖に着水した事が伝わると、リスク回避の動きからNZドル/円は78.20円台まで急落。しかし、その後は小安く始まったNYダウ平均が反発した事や、米国防総省が「北朝鮮のミサイルは北米とグアムの安全を脅かさない」との見解を示した事で、リスク回避ムードが緩むと切り返した。
30日	ウィーラーRBNZ総裁が「輸出セクターを支援しインフレを押し上げるためには、NZドルの下落が必要」などと発言。これを受け、NZドル/円は一時79.40円台まで下押しした。

NZD/JPY

日経平均

OPEN	19907.08
HIGH	20113.73
LOW	19280.02
CLOSE	19646.24

NYダウ平均

OPEN	21961.42
HIGH	22179.11
LOW	21600.34
CLOSE	21948.10

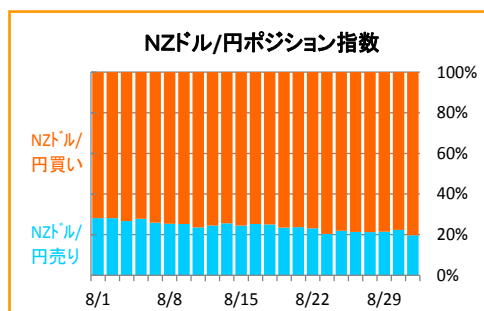
上海総合指数

OPEN	3274.369
HIGH	3376.648
LOW	3200.748
CLOSE	3360.810

NZ10年債利回

OPEN	2.992%
HIGH	3.040%
LOW	2.778%
CLOSE	2.903%

8月のポジション動向



9月のNZの注目材料

- ・NZフォンテラ入札(5日、19日)
- ・RBNZオフィシャル・キャッシュレート(27日)
- ・8月NZ企業景況感(PMI、15日)
- ・4-6月期NZ経常収支(20日)
- ・8月NZ住宅建設許可(29日)
- ・4-6月期NZGDP(21日)
- ・NZ総選挙(23日)
- ・8月NZ貿易収支(26日)

[月間指標カレンダー\(外部リンク\)](#)

9月の見通し

4日にロイターが「(NZの)野党・労働党と緑の党の支持率が、与党・国民党を上回る」と報じており、政権が交代する可能性が出てきた。これまで選挙リスクを織り込んでこなかったため、今後の世論調査などで政権交代の可能性が一段と高まるようならば、23日の総選挙に向けてNZドル相場に波乱が訪れる事となりそうだ。関連報道に注意したい。

また、27日にRBNZが金融政策を発表する。過去最低水準の政策金利(1.75%)の変更は予想されておらず、市場の関心は声明に集まっている。足下でNZドル高が進む中、NZドル高けん制のトーンが前回(貿易財インフレを押し上げ、より均衡の取れた成長を実現するためには、NZドル相場の上落が必要)より強まるか注目である。(川畑)

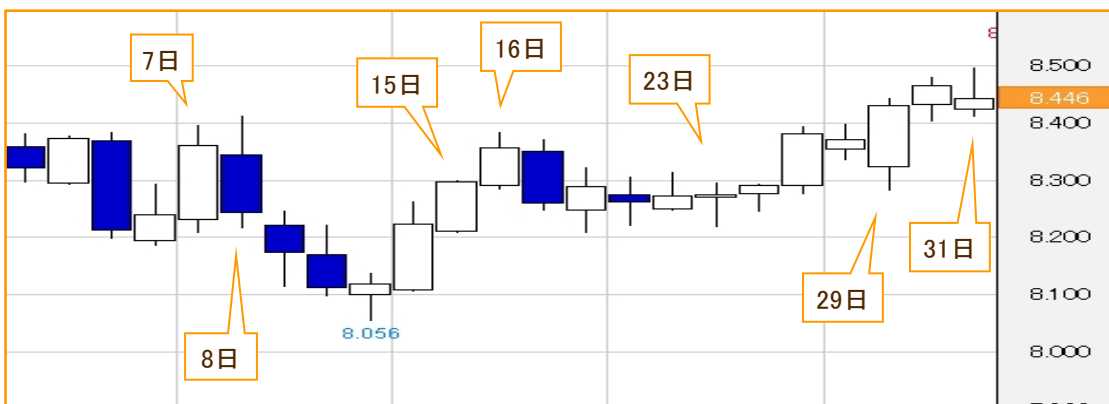
(予想レンジ: 75.500~81.000円)

ZAR/JPY

ランド/円 8月の推移

8月のランド/円相場は8.056～8.498円のレンジで推移。月間の終値ベースでは約0.9%の上昇(ランド高・円安)となった。

市場の信任が低い南アフリカのズマ大統領の退陣期待が高まってランドが買われるも、与党・アフリカ民族会議(ANC)からの造反者が少なかったことから大統領の不信任案が否決されると、失望売りが優勢となった。北朝鮮と米国の軍事衝突リスクが高まった事も重しとなり、11日に約4カ月ぶり安値となる8.00円台まで下落。しかし、その後は南アフリカの裁判所が、護民官による南ア中銀(SARB)の使命変更の提案を退けた事や、トランプ米政権への不信感や米利上げ先送り観測などを受けてドル安・ランド高が進んだ事などから反発すると、31日に8.50円付近まで値を上げた。



四本値

OPEN	8.360
HIGH	8.498
LOW	8.056
CLOSE	8.445

7日	8日に実施される大統領不信任投票について、無記名で実施することが決定。ズマ大統領の退陣観測が強まり、ランド/円は8.40円台まで急騰した。なお、南ア4-6月期失業率は27.7%(予想:27.5%)と、14年ぶり高水準となった前期から横ばいであった。
8日	ズマ大統領の不信任投票が実施され、賛成票は177と、全議席(400)の過半数に満たなかった。大統領が任期途中で辞任を免れたことが嫌気され、ランド売りが優勢となった。
15日	南ア裁判所は、護民官がSARBに対し物価・通貨の安定より経済成長を優先するよう求めていた問題で、護民官の提案には利点がないと主張して使命変更の提案を退けた。これを受け、ランド/円はやや値を上げた。
16日	南ア6月小売売上高は前年比+2.9%と予想(+2.4%)を上回った。
23日	南ア7月消費者物価指数は前年比+4.6%(予想:+4.7%)と、15年10月以来の低い伸びに留まった。これを受け、ランド/円は小幅に値を下げた。
29日	早朝に北朝鮮が発射したミサイルが日本の上空を通過して襟裳岬沖に着水した事が伝わると、リスク回避の動きから円買いが活発化するも一時的。その後は小安く始まったNYダウ平均が反発した事や、米国防総省が「北朝鮮のミサイルは北米とグアムの安全を脅かさない」との見解を示した事でリスク回避ムードが緩んだ事から、反発した。
31日	南ア7月貿易収支は90億ランドの黒字(予想:71億ランドの黒字)であった。

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

日 経 平 均

OPEN	19907.08
HIGH	20113.73
LOW	19280.02
CLOSE	19646.24

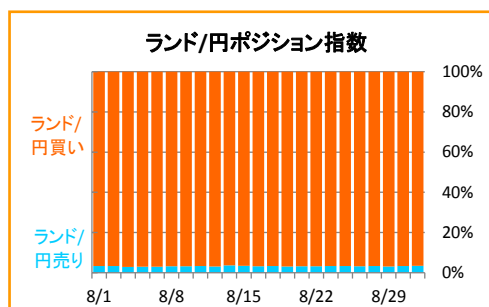
NYダウ平均

OPEN	21961.42
HIGH	22179.11
LOW	21600.34
CLOSE	21948.10

N Y 金

OPEN	1275.60
HIGH	1331.90
LOW	1257.10
CLOSE	1322.20

8月のポジション動向



8月の南アフリカの注目材料

- ・4-6月期南アGDP(5日)
- ・4-6月期南ア経常収支(12日)
- ・7月南ア小売売上高(13日)
- ・8月南ア消費者物価指数(20日)
- ・SARB政策金利発表(21日)
- ・8月南ア生産者物価指数(28日)
- ・8月南ア貿易収支(29日)

[月間指標カレンダー\(外部リンク\)](#)

9月の見通し

21日にSARBが金融政策を発表する予定である。本稿執筆時点での市場予想は、11月(年内最後)の理事会での利下げが大勢であるが、今月に前倒して実施するとの見方も一部にある。その手がかりとして、南ア8月消費者物価指数(20日)に注目したい。今年春以降インフレの伸びが落ち着く中、7月にはSARBの目標値(年3~6%)の中心値に迫っている。インフレの伸び鈍化傾向が確認されれば、21日の理事会での利下げ前倒し観測が広がる可能性がある。

テクニカル面では、今月も引き続き、週足の一目均衡表の雲上限がポイントとなろう。前月は雲上限を割るも一時的となり、その後切り返している。とはいえ、戻りが転換線や基準線が位置する8.40円前後で伸び悩んでおり、上値が重い。こうした中、雲上限(執筆時8.321円)を割るようだと、心理的節目の8.20円前後を目指す事になると見る。(川畑)

(予想レンジ: 8.100~8.800円)